

海人^{うみ} 現場最前線^{ひと}



重要インフラを縁の下から支えるマイスター

株式会社河村産業所
建設事業部 土木部 所長

白井 孝佳 さん(しらい・たかよし)

衣浦港は愛知県の南西部、知多半島東岸の知多湾に面し、機械工業をはじめとした基幹産業が集積する知多・西三河地域の産業活動を休みなく支えている。重要港湾である衣浦港の中核と言えるのが、大型船舶を受け入れる「中央ふ頭」。碧南市と半田市にまたがる中央ふ頭のうち、半田市側の「西地区」では現在、重要インフラの長寿命化に向け、国土交通省中部地方整備局による岸壁改良工事が計画的に進められている。

中央ふ頭西地区の岸壁は、築造後45年近くが経過。梁の部分などに鉄筋腐食やコンクリートのひび割れといった損傷が見受けられるようになってきた。河村産業所の白井孝佳所長が指揮を執る「令和3年度 衣浦港中央ふ頭西地区岸壁(-12m)改良工事」は、そうした経年劣化部分の断面修復工を施工するもの。ただ、現場の近くに行っても、岸壁改良工事が行われていることに気づく人は少ないかもしれない。施工場所が、栈橋形状をした岸壁上部工の裏側にあるからだ。



改良工事中の衣浦港中央ふ頭西地区岸壁

ここでの工事は、吊り足場形式の作業床を使って行われる。岸壁上部工の下面からチェーンで吊り下げた鋼製足場板が作業床となり、多い時には20人くらいで施工に当たる。既設コンクリートのはつり作業や、鉄筋加工・溶接、型枠の組み立て、補修材(グラウト)注入、コンクリートがらの土のう袋での運搬などをすべて限られた作業空間でこなさなければならない。作業床の下は海面。満潮になると足場は海水に浸かってしまう。施工計画を立てる上で、「吊り足場の高さをどうするか、その設定が難しかった」(白井さん)という。足場の高さによって作業時間の長さが決まるので、「潮位表を基に、作業が可能な時間を計算して、それぞれの作業予定を立てながら施工を進める必要があった」(白井さん)。

加えて、今回の工事を困難にしているのが「供用中の岸壁」であること。中央ふ頭は大型貨物船舶が着岸できる衣浦港唯一の大水深岸壁であるため、船舶の入港時には作業休止を余儀なくされる。海運業者と連絡を取りながら、入出港の予定日時や荷役の作業内容の把握に努めるが、外航船だけに直前の予定変更も覚悟しておかなければならない。海象条件や施工工程、船舶の入出港スケジュールなど、さまざまな変動要因を考慮しながらの施工管理は、長年にわたり積み上げてきた経験なくして容易には行えない難しさがある。

白井さんは名古屋市出身。高校、大学と一貫して土木を学び、「大好きな海の現場で仕事がしたい」と河村産業所に入社。勤続38年目の昨年11月に同社の「マイスター」に認定された。工事期間中にマイスターとなった衣浦港の岸壁改良工事は、とりわけ思い出深い現場となりそうだ。

(2月中旬に取材しました)

工事概要

- 【工事件名】 令和3年度 衣浦港中央ふ頭西地区岸壁(-12m)改良工事
- 【工事場所】 愛知県半田市十一号地先(中央ふ頭 西6号岸壁)
- 【発注者】 国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所
- 【請負業者】 株式会社河村産業所
- 【工期】 2022年3月18日～2023年3月10日